

平成 29 年度

北海道地区

参加無料

定員 200 名
申込先着順

橋梁技術発表会 及び 講演会

13:00～13:10

開会の辞

北海道土木技術会
鋼道路橋研究委員会 委員長 松本 高志

日 時

平成 29 年 11 月 02 日(木)13:00～16:50

13:10～13:25

協会活動報告

広報委員会

会 場

北海道経済センター8F (Aホール)
札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

第 1 部 (技術発表)

13:25～14:05

設計小委員会

1. 道路橋示方書はこう変わる
～部分係数体系版の改定内容～

休憩

申し込み

ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
受付は平成 29 年 9 月 21 日～10 月 19 日

※ 申し込みは、HP のみです。

継続教育

C P D S 認定予定

資料配布

当日配布は、PPT の 2 アップ出力のみです。
論文 pdf は事前に HP にアップ致しますので、
必要に応じて出力し持参願います。

14:15～14:55

床版小委員会

2. 大正時代の RC 床版が、
どうして長期使用に耐えられたのか！
～90 年以上の使用に耐えた九年橋の撤去床版から劣化過程を探る～

休憩

発表概要

【道路橋示方書はこう変わる】

道路橋示方書が 5 年ぶりに改定となり、その内容も現行の許容応
力度法から部分係数法へと大幅な変更となった。そこで、おもな改
定内容や留意点について具体的な設計例を交えながら分かり易く説
明する。

14:55～15:35

架設小委員会

3. ロッキング橋脚を有する橋梁の大規模地震対策
～名神高速道路 追分橋耐震補強工事～

休憩

第 2 部 (特別講演)

15:45～16:45

1. 鋼橋の今後の事業戦略を考える！
～観光資源としての橋梁～ ものづくり大学 教授
大垣 賀津雄

16:45～16:50

閉会の辞

橋梁技術発表会 実行委員会

開催会場

東 京地区：10 月 13 日 (金)
大 阪地区：10 月 18 日 (水)
中 部地区：10 月 27 日 (金)
北海道地区：11 月 02 日 (木)
東 北地区：11 月 10 日 (金)
九 州地区：11 月 17 日 (金)
(6 地区開催ですが、発表テーマは異なります)

【大正時代の RC 床版が、どうして長期使用に耐えられたのか！】

過去の設計規準により建設された鉄筋コンクリート床版（以下、
RC 床版）は、現行の規準に適合していない床版厚や鉄筋量のまま
使用されている場合、車両の大型化や交通量の増大の影響を受け、
劣化事例が多く報告されている。

九年橋は、大正 11 年と昭和 8 年に建設され、建設当時の RC 床版
に補修補強等を施すことで、平成 27 年度に取替えられるまでの 80
～90 年の間、使用環境の変化にも耐え、供用されてきた。

本研究では、直接荷重を受け、非常に厳しい使用環境となる RC
床版が、長期間使用することができた理由を探るため、九年橋にお
ける RC 床版の撤去前後に実施した調査結果をもとに、既設 RC 床
版の劣化過程の推定を行った。

【ロッキング橋脚を有する橋梁の大規模地震対策】

本橋は、名神高速道路の一部として昭和 37 年に建設された鋼 3 径間
連続非合成箱桁橋である。両端部支点は RC 逆 T 式橋台により、2
箇所の中間支点は鋼製のロッキング橋脚により支持されている。架
橋位置は滋賀県大津市の西部で、交通量が非常に多い国道 1 号並び
に京阪電鉄と立体交差している。

本工事では、ロッキング橋脚を水平力が負担できる新設の鋼コン
クリート複合橋脚に改築し、既存支承を免震支承に取替え、上部構
造の慣性力を各下部構造に分散させ、長周期化とエネルギー吸収に
よる減衰の向上により、レベル 2 地震に対応できる免震構造に改良
した。